



2019年6月12日

各 位

会 社 名 三光産業株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 石井 正和  
(コード番号 7922)  
問 合 せ 先 経営企画室 阿部 雅弘  
(電話番号 03-3403-8134)

## 中期経営計画の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の臨時取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、2018年5月11日に公表いたしました、2019年3月期から2021年3月期までの中期経営計画を修正し、新たに2020年3月期から2022年3月期までの中期経営計画を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 中期経営計画の修正内容

(単位：百万円)

	修正前			修正後		
	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期
売上高	11,400	12,000	12,800	11,000	11,500	13,000
営業利益	100	142	240	▲30	50	150
営業利益率	0.9%	1.2%	1.9%	▲0.3%	0.4%	1.2%

#### 2. 修正の理由

当社グループは、業績の回復と将来にわたる持続的な成長・発展を遂げていくために、2019年3月期を初年度とする「中期経営計画」を策定いたしましたが、中国市場における環境規制の厳格化及び米中貿易摩擦を主な要因とする、急激な経営環境の変化に伴い、2019年3月期の業績予想に対し、売上高、営業利益ともに未達（売上高11,196百万円、営業損失182百万円）となりました。

今回の業績及び今後の見込みを踏まえ、改めて市場環境や弊社の現況等を総合的に検討いたしました結果、2020年3月期を初年度とする2022年3月期までの「中期経営計画」を策定し、新たなスタートを切ることといたしました。

### 3. その他

詳細は別紙「(新) 中期経営計画」をご参照ください。

※本資料に記載されている業績目標は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。そのため、様々な要因により、実際の業績が目標ならびに予測と異なる可能性があります。

以 上

# 中期経営計画

2020年3月期～2022年3月期

2019年6月12日



(証券コード：7922)

中期経営計画修正	.....p.2
基本方針	.....p.3
数値目標	.....p.7

## ＜中期経営計画見直しの背景＞

当社グループは、業績の回復と将来にわたる持続的な成長・発展を遂げていくために、2019年3月期を初年度とする「中期経営計画」を策定いたしました。中国市場における環境規制の厳格化及び米中貿易摩擦を主な要因とする、急激な経営環境の変化に伴い、2019年3月期の業績予想に対し、売上高、営業利益ともに未達（売上高11,196百万円、営業損失182百万円）となりました。

今回の業績および今後の見込みを踏まえ、改めて市場環境や弊社の現況等を総合的に検討いたしました結果、2020年3月期を初年度とする2022年3月期までの「中期経営計画」を策定し、新たなスタートを切ることといたしました。

## 経営理念

「高い技術力、品質力で社会に貢献する」

## 経営の基本方針

「顧客企業における最高のサプライヤーになる基盤を整備する」

- 研究・開発に努め、技術の蓄積を行う
- 品質保証体制の確立と生産設備の充実
- 営業力の向上に努め、真のマーケットリーダーを目指す
- 組織の効率化を追求

## 黒字体質への転換

- 恒常的に利益を計上できる会社にする
- 中国地域の損失の影響を大きく受けたが、他の地域は黒字体質に向けて体制を整えている

## パネル事業の 業界内地位の安定化

- 品質管理の徹底と技術革新の継続により、業界のサプライヤーとして確固たる地位を築く

## シール・ラベル事業の 収益性の改善

- 東京圏のシール・ラベル事業の収益性を改善する
- アセアン地区全体でグループ貢献利益を上げる

# 経営目標達成のために①

パネル事業の  
業界内地位の安定化

- 品質管理の徹底
- 適正見積の実施
- 継続した技術革新への対応と高度な技術力のある企業との連携強化

シール・ラベル事業の  
新たな柱の構築

- 電気機器業界以外への進出
- グループ内受注の拡大により工場稼働率を上げる
- 設備投資による生産性の向上

基幹システムの  
リプレイス

- 旧システムを2020年10月までに刷新し、国内事業所の生産性の向上をはかる
- 計数管理報告の早期化および精緻化を実現し、経営インテリジェンスの向上をはかる



## アセアン地域の 業績の安定

- マレーシア工場のオペレーション高度化のため、新システムを導入
- バンコク、ベトナム拠点の早期黒字化のため、営業活動の強化

## 中国セグメントの 再構築

- 深圳工場の操業停止および販売会社への移行による中国セグメントの早期黒字化

# 数値目標①

## 見直し前

(単位：百万円)

	2019年 3月	2020年 3月	2021年 3月
売上高	11,400	12,000	12,800
営業利益	100	142	240
営業利益率	0.9%	1.2%	1.9%

## 見直し後

(単位：百万円)

	2020年 3月	2021年 3月	2022年 3月
売上高	11,000	11,500	13,000
営業利益	▲30	50	150
営業利益率	▲0.3%	0.4%	1.2%



## セグメント別売上

(単位：百万円)

セグメント別売上	2019年3月期 実績	2020年3月期 見込み	2021年3月期 計画	2022年3月期 計画	対2019年3月期 実績
連結合計	11,196	11,000	11,500	13,000	1,804
日本	9,072	10,072	9,309	10,361	1,289
中国	2,678	1,172	1,742	2,272	▲406
アセアン	757	894	2,570	4,233	3,476
全社・消去	▲1,312	▲1,138	▲2,121	▲3,866	▲2,554

- 2019年3月期の売上高の水準をベースにする
- 深圳は販売会社へ完全移行し着実に売り上げを伸ばす
- アセアンはタイを伸長し、今後の主要収益セグメントへ

## セグメント別営業利益

(単位：百万円)

セグメント別営業利益	2019年3月期 実績	2020年3月期 見込み	2021年3月期 計画	2022年3月期 計画	対2019年3月期 実績
連結合計	▲182	▲30	50	150	332
日本	▲5	131	29	58	63
中国	▲187	▲128	11	20	207
アセアン	▲6	▲33	10	72	78
全社・消去	16	-	-	-	▲16

- 中国事業の再構築
- アセアンを利益セグメントに成長させる

●2020年3月期からの3カ年を、2023年3月期以降安定して営業利益200百万円を計上するための基礎を作る期間として位置付ける

✓2020年3月期は、深圳工場クローズ関連コストを見込むため、営業利益▲30百万円とする

✓2021年3月期は、タイ市場の成長及び中国事業のリストラクチャリング完了で、営業利益50百万円を見込む

✓2022年3月期は、タイ市場の更なる成長とEDP完全稼働による社内オペレーションの生産性向上により、営業利益150百万円を確保する

# 設備投資計画

(単位：百万円)

拠点等	金額	主要項目	2019,3月 実績	2020.3	2021.3	2022.3
連結合計	1,150		214	326	511	313
本社	200	EDP	7	40	150	10
長野	200	生産能力増強	45	47	100	53
川越	50	設備更新他	39	10	20	20
大阪	50	生産能力増強 設備更新	44	20	20	10
中国	-	環境規制対応	23	-	-	-
マレーシア	150	設備更新他	25	17	67	66
タイ	90	生産能力増強	2	82	4	4
R&D	110	新規分野開拓	29	10	50	50
M&A	300	技術提携	-	100	100	100

3カ年計で1,150百万円を投資予定

EOF